

性同一性障害研修に差

中国地方 学 校 広島 具体策なし

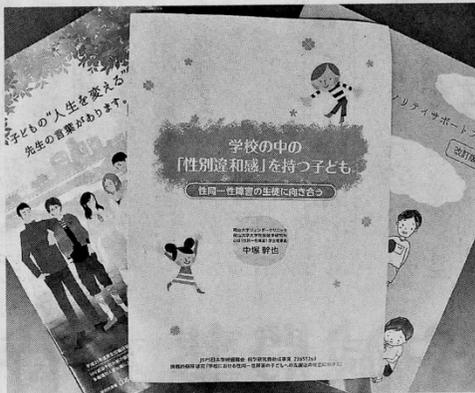
児童生徒の性同一性障害(GID)に関する文部科学省の全国調査結果が13日に公表され、悩みを抱える子どもが全国で少なくとも606人いる実態が明らかになった。ただ、教職員がGIDを理解するための取り組みは、広島県教委にないなど中国地方で温度差がある。専門家は「不登校やいじめにつながる例も少なくない。子どもの悩みに気付ける教員が増えることが重要」と指摘する。

(久保友美恵)

同省は2010年、都道府県の教育委員会にGIDの児童生徒の心情に配慮した対応▽市町村教委や学校に必要な情報提供―などを求める通知を出した。岡山県教委は国に先駆け、GIDの当事者や研究者に講師

を依頼し、小中高の教諭に基礎知識や適切な対応を伝えている。島根県教委も07年から毎年、研修を実施。同県は12年に県内の全小中高、特別支援学校の教諭にアンケートし、医療機関の情報が必要

しい▽子どもへの指導教材が欲しい―などの声を聞いた。県教委の研修に生かしている。山口県では県教委職員がGIDについて学び、各校の管理職たちの研修で教える。鳥取県教委は希望する



性同一性障害を理解するための教員向けの冊子

中国地方5県 性同一性障害(GID)に関する教職員研修の実施状況

広島県教委、全23市町教委	なし
山口県教委	校長、教頭、人権担当教諭に研修 養護教諭への指導
岡山県教委	教諭の初任者・5年目・10年目研修でGIDをテーマに設定 保育士、市町村教委の社会教育担当者、PTA役員に研修 各校の校内研修でGIDをテーマに設定
島根県教委	校長、教頭、行政職員に研修
鳥取県教委	教諭に人権教育研修(任意受講)

教職員向けに人権教育の環境で研修を開いている。

一方、広島県教委は具体的な取り組みがない。「教職員一人一人が心のケアの力をつけて対応する」とするにとどまる。県内のある高校教諭は「集団健診や合

宿の風呂を嫌がる子はいらぬが、悩みを伝えてくる子は少ない。先生が理解してくれぬか不安なんだと思う」と指摘。「教諭がGIDについて学ぶこと自体が生徒への肯定的なメッセージになる」と話す。

13年にGIDへの理解を促す教員向け冊子を作った岡山大学院の中塚幹也教授(生殖医学)は「同性愛とGIDの違いも分からない教諭が多く、学ぶことで子どものSOSに気付ける。子どもへの対応に地域差が生まれないよう行政は努めるべきだ」と訴えている。